単価表の設定に関する説明

株式会社ネットワークス

ここでは、請求書作成に使用する料金表である単価表を作成する場合の、入力項目とその入力方法に ついて説明します。最新のバージョンで説明していますので、古いバージョンをお使いの場合には 一部対応していない箇所があります。

一般的には、請求書の明細の金額は、数量×単価=金額で求めますが、特許事務の請求においては、 単純にこの方式にあてはまらない場合が多いので、必要な計算方法をサポートして、入力を効率的に 行うことができるようにしています。

以下、入力項目とその入力方法及び、それが請求書にどのように反映されてゆくのかについて解説 してゆきます。

8	単価表										-02
	単価表	部分一致	- 単位	≣Cod∈ <u></u> -							
	単価 000	12 _		Сору	Edit	New	Write	Delete	Print		
Þ	単価Code	0002		単価	名 手業	女料 ()凡	用)				 _
	単価ID		132			A11 (D4					
	単価種別	手数料	-	説E							
	計算区分	既定値									
	基本数量		0		型	基本	.料	単価	原価	単価	
	基本請求項				1		¥O	¥	0	¥O	
	単位										
	費用区分		-								
	原価型	無利益	•								
	拡張単価種別		•								
	▶ 消費税を	課税									
	▶ 源泉税を	課税									
	表示区分	通常	•								
	加算表示 🗖										
	数量指定	·	J								
	担当比率	なし・		<i>ν</i> ⊐-	le I ∎ I		1 🕨	• ▶∗ / 1			
J		1 🕨	► I ► #	/ 1							

上記が単価表の入力画面です。

・新規作成の場合は「New」を押します。

空白の初期画面になりますので、全て手入力してゆきます。

・修正の場合は、通常、単価コードをプルダウンで選択した後、「Edit」ボタンを押します。 「Edit」で「Delete」ボタンも使用可能となります。削除する場合は「Delete」を押します。 ここで削除した場合、出願台帳や請求台帳・顧客台帳と異なり、ゴミ箱でなく、最終的に削除 されます。

・既にある単価コードをコピーしてあらたな単価を作成する場合は、「Copy」を押します。 通常は、似た単価をコピーする方法で新規の単価を作成します。

・一覧表を印刷するには、単価コード等で絞込みをかけて選択した後、「Print」ボタンを押します。

(1)入力項目の説明

1.単価種別

・単価の種別です。基本は「課税対象」「非課税対象」を区別するためのものです。

ID	名称	集計 ID
1	印紙代	1
2	立替金	2
3	外国立替金	3
4	外注費	2
6	幸佞酉州	6
7	タイプ代	7
8	図面代	8
9	手数料	9

基本は「課税」「非課税」の区別です。

1~4 非課税 5~9 課税 となります。

通常は「1:印紙代」「3:外国立替金」「9:手数料」のいずれかを使用する。 課税・非課税を更に細分しているのは、細分した内容で集計をとれるようにするためです。 請求台帳に「集計1」から「集計9」までの独立した項目があり、そこに合計が集計されます。 ただし、現在は「1:印紙代」「3:外国立替金」「9:手数料」のみを使用し、管理資料として集計を とる場合は、別の方法で対応するようにしています。

2.計算区分

請求書作成時の数量の初期設定と金額の計算方法の2つの機能を併せ持っています。

- 0 規定値
- 1 通常単価
- 2 基本料
- 3 年金計算
- 4 外貨計算
- 5 請求項
- 6 請求項-1
- 7 外内納付1
- 8 項単価
- 9 手入力
- 10 請求項-2
- 11 外内納付2
- 12 外内審請
- 20 基本請求項
- 21 単価表示用:通常単価
- 23 単価表示用:年金計算
- 25 単価表示用:請求項
- 26 単価表示用:(請求項-1)

基本は「0:規定値」「1:通常単価」で、それ以外は特定の計算方法をカバーするためのものです。 それぞれの詳細な説明は別途、後述します。

規定値は、単価を手動で入力するためのものであり、通常単価は、数量を入力して、数量×単価=金額 で金額の計算を行うためのものです。 3.基本数量

計算区分により、使用方法が異なります。 通常は「0」(ゼロ)としておきます。 計算区分が「基本料」の場合、非加算の上限を指定します。(基本料をこえた分から加算する) 計算区分が「外内納付1」の場合、増分を指定するために使用します。

4.基本請求項

計算区分「基本請求項」との組み合わせで使用します。 請求明細入力で単価コード選択後に、明細行の単価に基本料、増単価に単価をセットします。 ここで指定した請求項の数までは固定料金(基本料)、それ以上の分について加算します。 以下のような計算式で金額の計算を行います。 数量>基本請求項:単価(基本料)+増単価×(数量-基本請求項) 数量<=基本請求項:単価(基本料)

5.単位

単位を表示する場合の初期値として指定します。 「頁」「Word」等

6.費用区分

費用区分をプルダウンで選択します。 請求書作成時に「費用区分」に初期セットされます。

7.原価型

「0:無利益」「1:定額」「2:単価」より選択します。 デフォルト値は「無利益」。原価の計算に使用します。

8. 拡張単価種別

特定の拡張単価区分を指定して集計するための区分です。 現在は「1:翻訳」のみサポートしています。

9. 消費税課税区分

消費税の対象項目の場合にオンにする。

通常は、単価区分が課税対象の場合はオン、そうでない場合はオフに設定するが、イレギュラなケース にも対応できるようにしています。

これをオフにすると請求書では、立替金(非課税対象)として扱われます。

外国人(外内ケース)の場合は、消費税は「なし」であるが、手数料(課税対象)として扱う必要があるので、 オンにしておく必要があります。

源泉税の対象ではあるが、消費税の対象とはしないといった設定もできます。

10. 源泉税課税区分

単価区分に連動していて、独自に変更はできません。 単価区分が課税対象の場合は、オンになり、そうでない場合はオフになります。 特許業務法人の場合は、源泉税は「なし」であるが、ここでの指定は「課税対象」項目としての意味合い をもっているものであり、「あり」に設定しておきます。

11. 表示区分

請求書の印刷時の表示・非表示の制御に使用します。 単価毎の指定なので、行単位で指定を変更できます。

通常:全ての項目を表示します。

印刷なし : 印刷しません。空白行として使用した場合等に使用します。 摘要のみ : 摘要が2行になる場合の2行目の摘要として使用する項目等で使用します。 摘要+金額:単価・数量を表示したくない場合に使用します。

12.加算表示

請求書作成時に摘要欄に自動で加算数を編集・表示する場合オンに設定します。 顧客台帳の「加算表示」がオンになっている場合に管理種別の「加算形式」に従って編集・表示します。

13.数量指定

出願台帳又は出願経過の「数量」に入力してある値を初期値として引用する場合に指定します。 プルダウンで指定します。

14. 担当比率

請求書の作成時に、出願台帳から管理者・担当者をセットする場合に指定します。 「なし」「掛率Aを転記」「掛率Bを転記」より選択します。 掛率A,Bは、担当者名簿に入力欄があります。

15. 単価名

請求書作成時に摘要にセットします。

16. 説明

単価の説明。請求書には影響を及ぼしません。メモ欄です。

(2)計算区分の詳細な説明

1.規定値

	単価表									
	単価表	部分一致	単価Code	•						
	単価	_	Сору	Edit	New	Write	Delete	Print		
►	単価Code 単価ID	0000-5 115	単価:	名手数	対料(規定	値)				
	単価種別	手数料 🔽	説	玥						
	計算区分	既定值 👤		型	基本料		単価	原価単価		
	基本数量	5		1	¥1,	000	¥100		¥O	
	単位									

上記のように設定して場合(「基本数料=5」「基本料=1000」「単価=100」) 請求明細には以下のように初期設定されます。

	Add Line	Ins	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al C	onvert	撞要等	入力 原価
行 Code 摘要						数量	単価	手数料	立替金		
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
►	2 0000-5	-	手数彩	∤(規定値)				5	1,000	1,000	0
	3 3118	-	納付手	■数料(外	内新)			2	0	25,000	0
	4 1216	-	出願審	F査請求手	数料(外	内)		2	0	22,000	0

・数量には、基本数料の「5」がセットされます。

・単価には、基本料の「1000」がセットされます。

・単価表で設定した、単価「100」は無視されます。

	Ad	ld Line	In	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al 🚺	onvert	搐要等	入力 原価
	行	Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1	0001	-	印紙代	こ(汎用)				1	10,000	0	10,000
►	2	0000-5	-	手数料	↓(規定値)				8	1,000	1,000	0
	3	3118	-	納付手	勤料(外	内新)			2	0	25,000	0
	4	1216	-	出願審	產請求手	数料(外)	内)		2	0	22,000	0

この後、数量を「5 8」に修正してみます。

金額(手数料)は変化しません。

このように「規定値」とした場合には、「基本数料」及び「基本料」が初期セットされ、以後、数量を変更しても、計算結果としての金額は変化しません。

規定値の場合の金額の計算は、画面上の「数量×単価」として行なわれるものではありません。 金額は直接自分で打ち込むものです。

したがって、一定の金額が決まっていて、必要に応じて、金額は手動で打ち変えるといった性格の 請求項目の場合に使用します。

したがって、ほとんどの場合とりあえず規定値に設定しておけば、つぶしがききます。

この後、単価を「1000 2000」に変更してみます。

	Add Line	In	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al	Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	ĉ(汎用)				1	10,00	0 0	10,000
►	2 0000-5	-	手数料	∤(規定値)				8	2,00	0 2,000	0
	3 3118	•	納付手	■数料(外	内新)			2		0 25,000	0
	4 1216	-	出願審	F査請求手	数料(外)	勺)		2	!	0 22,000	0

この場合、単価を変更することで金額(手数料)が変化します。 打ち込んだ単価をそのまま金額(手数料)にコピーしています。

この後、単価はそのままで、手数料のみを「2000 5000」に変更してみます。

	Add Line	In	s Line Del Lir	e ReNum	ReComp	Tota	al 🖸	onvert	摘要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代(汎用)				1	10,000	0	10,000
►	2 0000-5	•	手数料(規定)	直)			8	2,000	5,000	0
	3 3118	-	納付手数料((外内新)			2	0	25,000	0
	4 1216	•	出願審査請求	手数料(外	内)		2	0	22,000	0

この場合、金額(手数料)は、打ち込んだとおりになります。

このように金額の最終結果は、ここで打ち込んだものとなります。

単価表での各種設定は、数量・単価(及び内部の制御部分)への初期値の設定と、それに基づく金額 の計算に影響を与えますが、計算結果としての金額は、最終的に自由に変更が可能です。 2.通常単価

:8	単価表		
	単価表 部分一部	・ 単価Code <u>・</u>	
	単価 0000-6	Copy Edit New Write Delete Print	
▶	単価Code 0000-6	│ 単価名 手数料(通常単価)	
	単価 ID 1:		
	単価種別 手数料	1 説明	-
	計算区分 通常単価		<u> </u>
	前 算 一 二 一 二 一 二 一	- 型 基本料 単価 原価単価	
	基本数量	5 ▶ 1 ¥1,000 ¥100 ¥0	
	単位		

上記のように設定して場合(「基本数料=5」「基本料=1000」「単価=100」) 請求明細には以下のように初期設定されます。

	Add Line	e Ir	ns Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al	Convert	摘要等	入力 原価
	行Co	de			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,00	0 0	10,000
	2 0000-	5 _	▋手数料	F(規定値)				8	2,00	0 5,000	0
►	3 0000-	<u>î</u> -	手数料	▶(通常単位	晤)			5	i 10	0 500	0
	4 1216	-	山願審	『査請求手	数料(外[村)		2		0 22,000	0

・数量には、基本数料の「5」がセットされます。

・単価には、単価の「100」がセットされます。

・単価表で設定した、基本料「1000」は無視されます。

・金額(手数料)には、単価(100) × 数量(5) = 500 が初期セットされます。

	Add Line	In	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al 🔤	Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-5	•	手数料	∤(規定値)				8	2,000	5,000	0
►	3 0000-6	-	手数彩	∤(通常単位	晤)			8	100	800	0
	4 1216	-	出願審	F査請求手	数料(外)	村)		2	0	22,000	0

この後、数量を「5 8」に修正してみます。

金額(手数料)は「500 800」と変わります。

このように「通常単価」とした場合には、「基本数料」及び「単価」が初期セットされ、以後、数量及び 単価を変更することで、単価×数量=金額として、金額が計算されます。

したがって、一般的に単価×数量で金額が決定される請求項目(タイプ代・翻訳料)に対して使用します。

同様に単価を変更した場合にも、単価×数量で再計算されます。 計算結果の金額を最終的に手動で変更可能なのは、規定値の場合と同様です。 3. 基本数

* 8	単価表							<u> </u>
	単価表 部分-致-	単価Code						
	単価 0000-07 💽	Сору	Edit	New W	rite	Delete	Print	
•	単価Code 0000-07 単価ID 137	単価名	手数	料(基本料)				
	単価種別 手数料 _	説明						▲ ▼
		型		基本料	単	価	原価単価	
	基本数量 5		1	¥1,000		¥100	¥0	
	単位							

- ・上記のように設定した場合(「基本数料=5」「基本料=1000」「単価=100」)
- ・請求明細には以下のように初期設定されます。
- ・上記の意味は、「数量が5までは1000固定で、数量6以上は数量1につき100づつ加算」 という意味になります。

	Add Line	Ins Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al (Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	- 印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	✓ 手数料	ŀ(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	▶ 手数料	▶(通常単位	E)			8	100	800	0
٠	4 0000-07	· <u>-</u> 手数彩	ŀ(基本料)				5	1,000	1,000	0

・数量には、基本数量の「5」がセットされます。

同時に、この基本数量の「5」は内部的に「基本数」に保持されます。

- ・単価には、基本料の「1000」がセットされます。
- ・単価表で設定した、単価「100」は、内部的に「増単価」として保持されます。
- ・金額(手数料)には、基本料(1000) + 単価(100) × (数量(5)-基本数(5)) = 1000 が初期セットされます。

	Add Line	Ins	Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al 🚺	Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	•	印紙代	(汎用)				1	10,00	0 0	10,000
	2 0000-05		手数料	ł(規定値)				8	2,00	0 5,000	0
	3 0000-06		手数料	1(通常単位	睡)			8	3 10	0 800	0
►	4 0000-07	-	手数料	↓(基本料)				2	2 1,00	0 1,000	0

・この後、数量を「5 2」に変更してみます。

・金額(手数料)には変化はありません。

・この場合、元々の基本数が「5」ですので、数量5までは固定金額となります。

	Add Line	In	s Line	Del Line	Re Nu m	ReComp	Tota	al 🚺	Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0 0	10,000
	2 0000-05	-	手数料	ł(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	-	手数料	∤(通常単値	E)			8	100	800	0
►	4 0000-07	-	手数彩	ł(基本料)				8	1,000	1,300	0

・この後、数量を「28」に変更してみます。

・金額(手数料)は「1000 1300」と変化します。

・この場合の計算式としては、基本料(1000) + 単価(100) × (数量(8)-基本数(5)) = 1300 となります。

	Add Line	Ins L	ine DelLine	Re Nu m	ReComp	Tota	al 🛛	onvert	摘要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	• 印	紙代(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	●手	数料(規定値)	1			8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	┛手	数料(通常単1)			8	100	800	0
•	4 0000-07	手	数料(基本料)				8	2,000	2,300	0

・今度は、単価を「1000 2000」に変更してみます。

・金額(手数料)は「1300 2300」と変化します。

・この場合も計算式としても、基本料(2000) + 単価(100) × (数量(8)-基本数(5)) = 2300 となります。

この単価の使用方法としては、通常単価と重なりますが、例えば、タイプ代で5ページまではサービスで、6頁目以後、100/頁といった場合に使用します。

計算結果の金額を最終的に手動で変更可能なのは、その他の区分の場合と同様です。

4.年金計算

1 11														
	単価表 部分一致	・単価	jCode 💌											
	単価	C	ору	Edit	New W	rite Delete	Print							
▶	₩(# Code 0000 04		红雨之	XX X	())左 南特記約	х. сн ув. <i>Д</i> Р								
		- 7	- 100 - 40		小牛皮村計杯	化中环酸化物								
	単1曲ID 113			ļ										
		_ 8	説明の平成16年4月1以降審査請求の特許料											
	■価種別 印紙代 -													
	計算区分 年金計算 👱] [=	型	1	基本料	単価	原価単価							
	基本数量 (ī 🕩		1	¥2,600	¥200	¥O							
	単位			2	¥2,600	¥200	¥O							
		╎┌		3	¥2,600	¥200	¥O							
	費用区分			4	¥8,100	¥600	¥O							
	原価型 無利益 🔄			5	¥8,100	¥600	¥O							
	□ 消費税を課税			6	¥8,100	¥600	¥0							
	■ 酒息稻水理稻			7	¥24,300	¥1,900	¥0							
		ᆔ		8	¥24,300	¥1,900	¥0							
	▲示区分 通常 _	ᅬᄂ		<u> </u>	¥24,300	¥1,900	¥U							
	加算表示 🗖	\vdash	<u> </u>	10	¥81,200	¥6,400	¥U							
	教量指定 ▼			10	¥81,200	¥6,400	¥U							
				12	¥01,200	±0,400 ¥6,400	¥U νο							
	12日11年 _			1.4	¥01,200 ¥01 200	∓0,400 ¥6 /00	±0 ΨΩ							
		ν	⊐-K _	I €	1	• • • • * / 25								
12		▶ ▶ *	/1											

・計算区分「年金計算」は、年金印紙代の計算を行うための単価表です。

- ・「型」は通常の場合、顧客の単価区分に応じた料金の設定のためのものですが、「年金計算」の場合 は、年度となります。
- ・例えば昭和63年1月1日以後の出願で平成16年4月1日以降に審査請求を行った場合の特許料 について言えば、上記の画面のように設定します。
- ・基本料金を「基本料」に、1請求項ごとに加算する金額を「単価」にセットします。
- ・特許料の場合であれば、最大25年度まであるので、25までセットします。
- ・意匠の場合であれば、1請求項ごとに加算する金額はありませんので、ゼロで設定します。
- ・年金計算の単価は次ページのものがあります。

(特許)

- 1.昭和62年12月31日以前の出願(平成16年3月31日までに審査請求をした出願)
 第1年から第3年まで毎年8,500円に1発明につき5,600円を加えた額
 第4年から第6年まで毎年13,500円に1発明につき8,400円を加えた額
 第7年から第9年まで毎年27,000円に1発明につき16,800円を加えた額
 第10年から第25年まで毎年54,000円に1発明につき33,600円を加えた額
- 2.昭和62年12月31日以前の出願(平成16年4月1日以降に審査請求を行う出願)
 第1年から第3年まで毎年1,700円に1発明につき1,100円を加えた額
 第4年から第6年まで毎年5,400円に1発明につき3,300円を加えた額
 第7年から第9年まで毎年16,200円に1発明につき10,000円を加えた額
- 3.昭和63年1月1日以後の出願(平成16年3月31日までに審査請求をした出願) 第1年から第3年まで毎年13,000円に1請求項につき1,100円を加えた額 第4年から第6年まで毎年20,300円に1請求項につき1,600円を加えた額 第7年から第9年まで毎年40,600円に1請求項につき3,200円を加えた額 第10年から第25年まで毎年81,200円に1請求項につき6,400円を加えた額
- 4.昭和63年1月1日以後の出願(平成16年4月1日以降に審査請求を行う出願) 第1年から第3年まで毎年2,600円に1請求項につき200円を加えた額 第4年から第6年まで毎年8,100円に1請求項につき600円を加えた額 第7年から第9年まで毎年24,300円に1請求項につき1,900円を加えた額 第10年から第25年まで毎年81,200円に1請求項につき6,400円を加えた額

(実用新案)

- 昭和62年12月31日以前の出願 第1年から第3年まで毎年9,300円 第4年から第6年まで毎年18,500円 第7年から第10年まで毎年37,000円
- 2.昭和63年1月1日~平成5年12月31日の出願
 第1年から第3年まで毎年8,500円に1請求項につき800円を加えた額
 第4年から第6年まで毎年16,900円に1請求項につき1,600円を加えた額
 第7年から第10年まで毎年33,800円に1請求項につき3,200円を加えた額
- 3.平成6年1月1日~平成17年3月31日の出願
 第1年から第3年まで毎年7,600円に1請求項につき700円を加えた額
 第4年から第6年まで毎年15,100円に1請求項につき1,400円を加えた額
- 4.平成17年4月1日以降の出願
 第1年から第3年まで毎年2100円に1請求項につき100円を加えた額
 第4年から第6年まで毎年6,100円に1請求項につき300円を加えた額
 第7年から第10年まで毎年18,100円に1請求項につき900円を加えた額

(意匠)

- 1.意匠 第1年から第3年まで毎年 8,500 円 第4年から第10年まで毎年 16,900 円 第11年から第15年まで毎年 33,800 円
- 2.類似意匠の場合 8,500 円

- ・前記のように設定した場合(昭和63年1月1日以後の出願で平成16年4月1日以降に審査請求を 行った場合の特許料印紙代)
- ・摘要には、納付年度がセットされます。(XX-XX 年度特許料印紙代 04 年度特許料印紙代) この案件では、今回第4年度分の年金を納付したので、その請求書を発行するという設定です。 納付年度は、内部的に保持されます。
- ・数量には、この案件の請求項がセットされます。

・金額(立替金)には、第4年度分で請求項が2の場合の金額=8100+600×2=9300がセットされます。

	Add Line	Ins Line	Del Line	Re Nu m	ReComp	Tota	al C	onvert	搐裏等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	• 印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	✓ 手数料	(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	✓ 手数料	·(通常単向	£)			8	100	800	0
	4 0000-07	✓ 手数料	·(基本料)				8	2,000	2,300	0
٠	5 0000-04	■ 04年度	特許料印	紙代			2	0	0	9,300

・年金計算の場合、数量欄にマウスカーソルを移動すると、下記のような年度の入力欄が表示されます。 ここで、納付年度を手動で入力することができます。

納付年度は、その案件の納付年度が初期値としてセットされますが、手動で入力する場合等で、単独 で入力する場合等は、ここで入力することができます。

闘 請求納	付:フォー	h X
開始年	終了年	F 11
4	4	Exit

今回、4年度から6年度分までの3年分を納付したとします。

闘 請求納付:フォーム 🛛 💌										
開始年	終了年	F •								
4	6	Exit								

	Add Line	In	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al C	onvert	撞要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	-	手数料	F(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	-	手数料	(通常単位	晤)			8	100	800	0
	4 0000-07	-	手数料	F(基本料)				8	2,000	2,300	0
►	5 0000-04	-	04-064	年度特許料	和紙代			2	0	0	27,900

・摘要には、納付年度がセットされます。(XX-XX 年度特許料印紙代 04-06 年度特許料印紙代) 今回第4年度分から第6年度分の年金を納付したので、その請求書を発行するという設定です。

・金額(立替金)には、第4年度分から第6年度分で請求項が2の場合の金額

第4年度分:8100+600×2=9300 第5年度分:8100+600×2=9300 第6年度分:8100+600×2=9300

の合計として、27900がセットされます。

5.外貨計算

	単価表							<u>_0 ×</u>
	単価表 部分一致	単価Code						
	単価 0000-08 💽	Сору	Edit	New	Write	Delete	Print	
•	単価Code 0000-08 単価ID 139	単価名	現地	;代理人費,	用			
	単価種別 外国立替金 💌	説明						
	計算区分外貨計算 💽	 포	!	基本料	1	単価	原価単価	
	基本数量 0		1		¥O	¥O	¥O	
	単位							

・計算区分「外貨計算」は、外国出願の外国代理人立替金を計算するためのものです。

- ・単価種別「外国立替金」と組み合わせて使用します。
- ・請求明細には以下のように初期設定されます。

	Add Line	Ins Line	Del Line	Re Nu m	ReComp	Tota	al C	onvert	摘要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
►	1 0000-08	3現地位	代理人費用				0	0	0	0
	2 6010	 当事者 	§所費用				0	50,000	50,000	0

・ここで数量欄へマウスカーソルを移動すると、以下の外貨入力のフォームが開きます。 ここで、「通貨」「外貨金額」「レート」を入力し、EXITボタンを押します。

圖 請求外貨:フォーム												
通貨	外貨	Rate	Ende									
US\$ 💽	3,250.00	114.22	EXI									

・以下のように摘要が編集されて、金額が計算されます。(3250.00×114.22=371215) ここで、小数点以下の値になった場合の計算は、指定によります。(デフォルトは切り捨て)

	Add Line	Ins L	ine	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al [(onvert	搐裏等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
►	1 0000-08	」現	地代	理人費用	(US\$3,25).00×114.	22)	0	0	0	371,215
	2 6010		事務	所費用				0	50,000	50,000	0

6 . 請求項

計算区分「請求項」は、初期値として数量に、その案件の請求項をセットするためのものです。 計算方法としては、「基本料」と同じです。

基本料+単価×数量で金額を求めます。

基本料金があって、それに請求項単位で加算される、審査請求印紙代、商標出願印紙代及び特許出願の 手数料等に使用します。

	単価表		
	単価表 部分-致-1	単価Code	
	単価 0000-09 <u>-</u>	Copy Edit New Write Delete Print	
┣	単価Code 0000-09	単価名 印紙代(請求項)	
	単価 ID 140		
	単価類別 FD紙 代 ▼	説明 平成16年4月1日以降の特許出願分	
	前算些为" <u>胡尔琪</u>	型 基本料 単価 原価単価	_
		▶ 1 ¥168,600 ¥4,000 ¥0	
	単位		

上記は、平成16年以4月1日以降の特許出願の審査請求印紙代の設定です。 この場合の金額の計算は「168,600円+(請求項の数 × 4,000円)」というものです。 基本料金(仮に請求項をゼロとした場合の金額)を基本料にセットします。 1請求項毎の加算額を単価にセットします。

	Add Line	Ins	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al C	onvert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	•	手数料	(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	•	手数料	(通常単位	E)			8	100	800	0
	4 0000-07	-	手数料	F(基本料)				8	2,000	2,300	0
►	5 0000-09	•	印紙代	(請求項)				2	168,600	0	176,600

・数量には、当該案件の請求項2がセットされます。

・単価には、基本料の「168600」がセットされます。

・単価表で設定した、単価「4000」は、内部的に「増単価」として保持されます。

・金額(立替金)には、基本料(168600)+単価(4000)×数量(2)=176600 がセットされます。

	Add Line	Ins	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al (Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	•	手数料	(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	•	手数料	(通常単位	E)			8	100	800	0
	4 0000-07	•	手数料	·(基本料)				8	2,000	2,300	0
►	5 0000-09	•	印紙代	(請求項)				5	168,600	0	188,600

・ここで請求項(数量)を「2 5」に変更してみます。

・金額は「188600」に変更されます。(168,600+4000×5=188,600)

・このように、請求項が初期セットされた後の計算方法は「基本料+単価×数量」です。 単価は、単価表で設定された単価で、内部的に保持された「4000」です。 7.請求項-1

計算区分「請求項-1」は、初期値として数量に、その案件の「請求項-1」の値をセットするための ものです。それ以外は、「請求項」と同じ機能です。 特許出願時の請求項加算分のように、加算分(請求項から1マイナスした値)を必要とする場合に使用 します。

具体的には以下のようになります。(仮に請求項が5の場合)摘要数量単価金額--------------特許出願手数料164000同請求項加算額4500020000

特許出願手数料の計算区分は「規定値」で「基本料」に「164000」を入力しておきます。 請求項加算額の計算区分は「請求項-1」で単価を「5000」と設定します。 数量には、請求項(5)から1をマイナスした「4」が初期セットされます。 1請求項毎に加算する金額には単価「5000」が入り、4×5000=20000が加算額として計算されます。

特許出願手数料に加算額を含めて表示する場合は、以下のようになります。

摘要	数量	単価	金額
 特許出願手数料	4	5000	184000

この場合、特許出願手数料の「基本料」に請求項が1であった場合の金額をセットしておきます。 同時に特許出願手数料の計算区分は、上記「請求項加算額」と同じく「請求項-1」とします。 それによって、基本料+(請求項-1)×単価で金額が計算されます。

8.請求項-2

計算区分「請求項-2」は、計算のルールは「請求項-1」と同じです。 「請求項-1」となるところが、「請求項-2」となります。 この計算区分を使用するケースとしては、請求項加算を2(請求項3)から始めるといった場合です。 通常、使用されるケースはあまりありません。

9. 外内納付1

計算区分「外内納付1」は、外内ケースの登録料納付手数料の計算を行うためのものです。 計算方法により「外内納付2」と併せて2種類、用意しています。 外内ケースの納付手数料は、通常、納付年度と請求項の数の組み合わせで決定しています。

88	単価表							
	単価表 部分	単価	Code 💌					
	単価 0000-21 💽	C	opy Edit	New	Write	Delete	Print	
		_						
	単価Code 0000-21	単	価名 納住	寸手数料,	(外内タ	イプ1)		
	単価ID 133							
		訪	明					
	単価種別手数料 🔄							
	計算区分外内納付1 -		开山	其未到		甾価	直体消体	
	基本数量 2005		± 1	(±) (+) (+)	¥0	= im ∧0	·····································	^
	2003	Ľ	0		∓ υ <u>νο</u>	¥0 V0	±0 V0	
	単位	\vdash	2	825	<u>∓∪</u> \\\\\	U∓ 000 a¥	±0 ¥0	
	● 豊用区分 ●	\vdash	4	+20, ¥15,	100	¥5,000	+0 ¥0	
	原価型 無利益 ▼	\vdash	5	¥15,	100	¥5.000	+0 ¥0	
			6	¥15,	000	¥5,000	¥0	
	7月 頁 1元 12 a未 1元		7	¥15,	000	¥5,000	¥O	
	☑ 源泉税を課税		8	¥15,	000	¥5,000	¥O	
	表示区分通常 🚽		9	¥15,	000	¥5,000	¥O	
			10	¥15,	000	¥5,000	¥O	
			11	¥15,	000	¥5,000	¥O	
			12	¥15,	000	¥5,000	¥O	
	担当比率 なし 💽		13	¥15,	000	¥5,000	¥O	
			□──┝: ∎∎ □			¥⊑_0001 ▶∗ / 25	νn	_
		1.8						
10.		1778						

- ・基本数量の「2005」という数字は、請求項の区割りと最大の区割り数を表しています。 後半の「05」が請求項の増分で、前半の「20」は増分の最大を表しています。 この場合であれば、請求項の増分単位が5で、増分の最大は20で、最大、5×20=100で、 請求項100までを計算するようにしているとうことです。
- ・型は「年度」です。
- ・基本料は、請求項をゼロとした場合の基本料金です。
- ・単価は、請求項の増分(この場合は5請求項で1単位と指定されている)毎に加算する金額です。
- ・仮に請求項16で1年度分の金額を計算した場合、型=10の基本料と単価を元に計算します。 請求項は16ですので、増分は16÷5=3余り1で3となり、金額は15000+5000×3=30000 となります。

	Add Line	Ins Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al C	onvert	摘要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	• 印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	✓ 手数料	(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	✓ 手数料	(通常単位	E)			8	100	800	0
	4 0000-07	✓手数料	·(基本料)				8	2,000	2,300	0
۲	5 0000-21	✔ 04手数	(料(外内	タイプ1)			2	0	15,000	0

・数量には、当該案件の請求項2がセットされます。

・該当案件の納付年度は摘要に「04」と表示され、内部的に保持されます。

・金額(手数料)には、基本料(15000) + 単価(5000) × 数量(請求項2) ÷5 = 15000 がセットされます。

	Add Line	Ins Line	Del Line	Re Nu m	ReComp	Tota	al C	onvert	撞要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	→印紙(代(汎用)				1	10,000) 0	10,000
	2 0000-05	 手数和 	斗(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	. ● 手数	斗(通常単信	赿)			8	100) 800	0
	4 0000-07	✓手数#	泮(基本料)				8	2,000	2,300	0
►	5 0000-21	▶ 04手∛	汝料(外内	タイプ1))		6] (20,000	0

・ここで、数量を「26」に変更してみます。

・金額は「15000 20000」と変化します。

- ・これは、基本料(15000) + 単価(5000) × 数量(請求項6) ÷ 5 = 20000 として求められたものです。
- ・数量2から5までは15000、6から10までは20000、・・・・と計算されます。

10. 外内納付2

計算区分「外内納付2」は、外内ケースの登録料納付手数料の計算を行うためのものです。 「外内納付1」との違いは、上限値を定めることができるようにしたことです。 外内ケースの納付手数料は、通常、納付年度と請求項の数の組み合わせで決定しています。

 単価支 部分→到・単価Code、 単価 0000-22 Copy Edit New Write Delete Print 単価Code 0000-22 単価名 納付手数料 (外内タイプ2) 単価種別 手数料 単価種別 手数料 計算区分 外内納付2 ・ 単位 単位 単位 単位 1999 ¥0 ¥0 	×
単価 0000-22 Copy Edit New Write Delete Print 単価Code 0000-22 単価名 納付手数料(外内タイプ2) 単価名 単価10 134 単価名 納付手数料(外内タイプ2) 単価種別 単価種別 手数料 ・ 説明 単価種別 手数料 ・ ・ ・ ・ 単価種目 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 単価種目 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 単価種目 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	Γ
単価Code 0000-22 単価名 納付手数料(外内タイプ2) 単価10 134 単価名 単価10 134 説明 単価種別手数料 ・ シ 計算区分 外内納付2 ・ 基本数量 0 ・ 単位 1989 ¥0 単位 2999 ¥0 費用区分 ・ 3005 第6型 第3005 ¥25,000 第000 ¥0 ¥0	
単価Code 0000-22 単価名 納付手数料(外内タイプ2) 単価10 134 単価名 単価種別手数料 ・ 説明 計算区分 外内納付2 ・ 型 基本料 単価 原価単価 単位 ・ ・ 1999 ¥0 ¥0 ¥0 単位 ・ 1999 ¥0 ¥0 ¥0 ¥0 費用区分 ・ 3005 ¥25,000 ¥0 ¥0 ¥0 原価型 無利益 ・ 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
単価ID 134 単価種別手数料 説明 計算区分外内納付2 型 基本数量 0 単位 1999 単位 1999 費用区分 1 原価型 無利益	
単価種別 手数料 説明 計算区分 外内納付2 ・ 型 基本料 単価 原価単価 基本数量 0 単位 1999 単位 1999 費用区分 1 原価型 無利益	
単価種別手数料 ● 計算区分外内納付2 ● 基本数量 0 単位 ¥0 単位 ¥0 単位 1999 単の ¥0 単位 1999 単の ¥0 単位 1999 単の ¥0 第回2 ¥0 第回305 ¥25,000 ¥0 ¥0 第回型 ¥0 第回2 ¥1 第回3005 ¥25,000 ¥0 ¥0 第回型 ¥0 第回 ¥0 ¥0 ¥0	
計算区分 外内納付2 型 基本料 単価 原価単価 基本数量 0 1999 ¥0 ¥0 ¥0 単位 1999 ¥0 ¥0 ¥0 費用区分 1 3005 ¥25,000 ¥0 ¥0 原価型 無利益 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
基本数量 0 ¥0 ¥0 ¥0 単位 1999 ¥0 ¥0 ¥0 費用区分 ✓ 3005 ¥25,000 ¥0 ¥0 原価型 無利益 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
単位 1999 ¥0 ¥0 費用区分 1 2999 ¥0 ¥0 原価型 無利益 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
単位 2999 ¥0 ¥0 ¥0 費用区分 1 3005 ¥25,000 ¥0 ¥0 原価型 無利益 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
費用区分 3005 ¥25,000 ¥0 ¥0 原価型 無利益 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
原価型 無利益 ▼ 3010 ¥30,000 ¥0 ¥0	
□ 消費税を課税 3015 ¥36,000 ¥0 ¥0	
3020 ¥42,000 ¥0 ¥0	
▶ 源泉祝 Z 課祝 3999 ¥48,000 ¥0 ¥0	
表示区分通常 <u>6005 ¥15,000 ¥0 ¥0</u>	
加貨表示 [6010 ¥20,000 ¥0 ¥0	
6015 ¥25,000 ¥0 ¥0	
<u> </u>	
<u>担当比率 なし 🔄 6999 ¥35,000 ¥0 ¥0</u>	

- ・計算区分「外内納付2」は型を「年度(2桁)+請求項(3桁)」で定義します。
- ・システムの仕組み上、型「1」は必須なので、別途用意しておきます。 この部分は計算には使用しません。
- ・1~3年度はまとめて払うため、3年度にまとめています。
- ・金額が変化する最後の「年度+請求項」をセットしています。
- ・例えば、5年度分の請求項16の場合の金額といった場合は、以下のように見ます。 まず、「5016」よりも大きい最小の型を探します。それは「6005」となります。 次に、年度が6で請求項が16よりも大きい最小の型を探します。それは「6020」となります。 型「6020」の基本料が、求める金額となります。
- ・この例で言えば、4~6年度は同一金額で、請求項21以上は35000固定となります。

	Add Line	Ins	s Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al 🚺	onvert	摘要等	入力 原価
	行 Code				摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	-	印紙代	(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	-	手数料	(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	-	手数料	(通常単位	£)			8	100	800	0
	4 0000-07	-	手数料	·(基本料)				8	2,000	2,300	0
►	5 0000-22	•	04手数	(料(外内	タイプ2)			2	0	15,000	0

・数量には、当該案件の請求項2がセットされます。

・該当案件の納付年度は摘要に「04」と表示され、内部的に保持されます。

・金額(手数料)には、型「6005」の基本料(15000)がセットされます。

- ・ここで、数量を「26」に変更してみます。
- ・金額は「15000 20000」と変化します。
- ・これは、型「6010」の基本料として求められたものです。

	Add Line In	sLine DelLine ReNum ReComp To	tal (onvert	撞要等	入力 原価
	行 Code	摘要	数量	単価	手数料	立替金
	1 0001 🗸	印紙代(汎用)	1	10,000	0	10,000
	2 0000-05 🗸	手数料(規定値)	8	2,000	5,000	0
	3 0000-06 🗸	手数料(通常単価)	8	100	800	0
	4 0000-07 🗸	手数料(基本料)	8	2,000	2,300	0
►	5 0000-22 🗸	D4手数料(外内タイプ2)	6	0	20,000	0

意匠の場合の設定

・意匠の場合は請求項の数はなく、年度のみでの変化となります。 請求項は0(ゼロ)として設定します。

88	単価表									- <u> </u>
	単価表	部分一致一旦	単価	Code 💌						
	単価	· ·	C	ору	Edit	New	Write	Delete	Print	
Þ	単価Code	0000-23) لل	価名	杨石	主新科	(音匠・	処内タノ	-f2)	 _
	单価ID	1.42	-	- 100-100	isra 1.1	1 ጋ	(思注・	71024	527	
		172	١.	i 88	<u> </u>					
	単価種別	手数料 💽								
	計算区分	外内納付2 🛃		型		基本料		単価	原価単価	-
	基本数量	0			1		¥O	¥O	¥O	
	単位			1	999		¥O	¥O	¥0	
	費用区分		⊢	2	2999	¥25	¥U 000	¥U ¥0	¥U ¥0	-
	原価型		⊢		3333 3999	¥15,	000	+0 ¥0	+0 ¥0	-
	□□ 消費稅			g	9999	¥20,	000	¥O	¥O	
	▶ 源泉彩	 〔を課税		20	9999	¥25,	000	¥O	¥O	_
	表示区分	通常 •								
	加質表示									
	が異なが									
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·									
	면금比平		Ι.					1 1 4 5		•
	10 I			⊐−r:j	14 4]	1	▶ * 7 7		
יען	<u>1-1: 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>	1 <u>▶ ⊨</u>	▶*	/1						

上記の設定で、

1から3年度までの3年分:25000円 4から6年度分の各年度 :15000円 7から9年度分の各年度 :20000円 10年度以降の各年度 :25000円 となります。

11. 外内審請

計算区分「外内審請」は、外内ケースの審査請求手数料の計算を行うためのものです。 外内ケースの審査請求手数料は、通常、請求項の数によって加算されます。

**	単価表										_ [Ľ
	単価表	部分一致_	・単	∰Code								
	単価 0000	-23 💌		Сору	Edit	New	Write	Delete	Print			
				We have be	L.C. minter		a est and and					_
ľ	里1曲Code UUU	0-23		里恤名	出腺	審査請习	又手数料	F (外内)				
	単価ID	135	5									
			_	说明	出願	審査請す	マチ数料	F(外内)				
	単価種別 手妻	· 文料										
	計算区分 外内	内審請 🔤	J	型		基本料		単価	原価単価	₫	A	ī
	基本数量	(Π		1	¥14,	000	¥4,000		¥O		1
	単位		ΞE		5	¥14,	000	¥4,000		¥O		
	费用区分		ΗL		20	¥24,	000	¥2,000		¥O		
		-	╡┝		999	¥64,	000	¥O		¥O		
	原価型 定名	湛	11									
	□ 消費税を割	₹税										
	▶ 源泉税を割	果税										
	表示区分 通常	常	Ī									
	加算表示 🗖											
	数量指定	•										
	担当比率なし	U !									-	
			L	v⊐+M j	14 ×		1 • •	▶⋇ / 4				-
12		1	FI 🌬	€ / 1								

- ・計算区分「外内審請」は型を「請求項(3桁)」で定義します。
- ・システムの仕組み上、型「1」は必須なので、別途用意しておきます。 この部分は計算には使用しません。
- ・金額が変化する最後の「請求項」をセットしています。
- ・例えば、請求項16の場合の金額といった場合は、以下のように見ます。 まず、「16」よりも大きい最小の型を探します。それは「20」となります。 型「20」が求める金額となります。基本料+単価×請求項で計算します。
- ・この例で言えば、24000 + 2000 × 16 = 56000 となります。

	Add Line	Ins Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al (Convert	摘要等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	→印紙	代(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	 手数: 	料(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	 手数: 	料(通常単(赿)			8	100	800	0
	4 0000-07	✓手数:	料(基本料)				8	2,000	2,300	0
۲	5 0000-23	┛出願	審査請求手	数料(外)	勺)		2	0	22,000	0

・数量には、当該案件の請求項2がセットされます。

・金額(手数料)には、型「5」の基本料及び単価に基づき14000 + 4000 × 2 = 22000 がセットされます。

- ・ここで、数量を「26」に変更してみます。
- ・金額は「22000 36000」と変化します。
- ・金額(手数料)には、型「20」の基本料及び単価に基づき 24000 + 2000 × 6 = 36000 がセットされます。

	Add Line	Ins Line	Del Line	ReNum	ReComp	Tota	al C	onvert	搐裏等	入力 原価
	行 Code			摘要			数量	単価	手数料	立替金
	1 0001	▶ 印紙代	t(汎用)				1	10,000	0	10,000
	2 0000-05	✓手数料	ł(規定値)				8	2,000	5,000	0
	3 0000-06	✓ 手数料	∤(通常単値	£)			8	100	800	0
	4 0000-07	 手数料 	ł(基本料)				8	2,000	2,300	0
►	5 0000-23	✓出願審	「査請求手	数料(外口	内)		6	0	36,000	0

12. 項単価

計算区分「項単価」は、初期値として数量には(請求項 - 1)がセットされます。 その点に関しては、「請求項-1」と同じです。 金額の計算方法の違いは以下の通りです。

請求項 - 1:基本料+単価×(請求項-1) 項単価 :単価×(請求項-1)

単価表の設定が、「基本料=1000」「単価=100」で、請求項が5の場合。

具体的には以下のようになります	。(仮に請	求項が5の場	拾)	
摘要	数量	単価	金額	
(請求項 - 1)	4	100	1400	
(項単価)	4	100	400	

通常単価との違いは、初期値として数量に(請求項-1)をセットしていることです。 通常単価の場合は、初期値のセットは行いません。

13. 手入力

計算区分「手入力」は、金額を手入力するための単価です。 初期値として、基本料が単価にセットされ、それがそのまま金額にコピーされます。 また基本数量が数量にセットされますが、数量×単価での金額の計算は行いません。 初期設定後は、全てを手動で入力します。 数量に値を入れても、数量×単価で金額の計算は行いません。 あくまで、単価に入力した金額が、そのまま金額にコピーされます。

動作は、「規定値」と同じです。 当初は別の意味を持たせていましたが、現在は同一のルールで計算を行います。

14.請求項-2(10)

計算区分「請求項-2」は、初期値として数量に、その案件の「請求項-2」の値をセットするための ものです。それ以外は、「請求項」と同じ機能です。 特許出願時の請求項加算分で、加算分を「請求項-1」でなく、「請求項-2」とする場合に使用します。 特異なケースですが、このように計算する場合もあります。

15. 基本請求項(20)

計算区分「基本請求項」は、単価表に「基本請求項」で指定した数の請求項までは基本料金とし、 それ以降について加算してゆく計算を行います。 そのために、明細行に新たに「基本請求項」フィールドを設けています。 ここに単価表の「基本請求項」の値が初期値としてセットされます。 16. 単価表示用:通常単価(21)

計算区分「単価表示用:通常単価」は、630から新しく追加した計算区分です。 従来の「通常単価」は、数量(入力)×単価(単価表で初期設定)で金額を計算していましたが、 これに基本料をプラスして、基本料(単価表で初期設定)+数量(入力)×単価(単価表で初期設定) で金額を計算する方式をサポートするようにしたものです。

そのために、明細行に「基本料」フィールドを設けています。

ここに単価表の「基本料」の値が初期値としてセットされます。

このことにより、表記の上でも上記の書式をサポートすることができるようになりました。

	単価表										
	単価		Сору	Edit	New	Write	Delete	Print			
Þ				in the s							
'	単1曲Code	0000-31	単惟	1名 手 刻	牧料(単)	価表示月	书: 通常単	.価)			
	単価ID	154									
	単価種別	手数料	説	明					_		
	計算区分	単価表示用 🛃							•		
	基本数量	2		型	基本	料	単価	原価単価			
	基本請求項	0	┢└	1	¥	1,000	¥10	0 ¥0			
	単位										

単価表の設定です。基本料=1,000 単価=100 となっています。

請求書作成時の明細行への設定画面です。

	Add L	_ine Ins Lir	ne Del Line	ReNum	ReComp	Total	Con	ert	摘	要等入力 原	(価)消費税
3	行	Code		摘要		数量		単価	手数料	1 立替金	単位 割
►	1 00	00-31 🚽 手装	☆料(単価表⇒	六用: 通常	『単価)	2		100	1,	200	0
	1			211-00-021							
_		摘要等	入力 原価	消費税					(
Ð	i	手数料	立替金	単位 割	外貨	管理者		担当	者	基本料	費用明細コード
	100	1,200	0		0.0	0 -	0	-	- (1,000	-

・単価表の基本数量は請求明細の数量にセットされます。

・単価表の基本料は請求明細の基本料にセットされます。

・単価表の単価は請求明細の単価にセットされます。

・金額(1200)は基本料(1000)+単価(100)×数量(2)で計算されます。

手数料	1,200	立替金	0	請求額	1,200 ^差引請 求	1,140
源泉税	120	消税対象	1,200	消費税	60 外国送金	0

ここで、数量を2 5に変更します。

	手数料	1	,500 立	替金	0 請求額			1	1,500 差引請求			
	源泉税		150 消雨	脱対象	1,500 🕅		消費税		75 外国送金		Ê	
	Add Line	ReComp	То	təl 🗍	onvert	摘要等	入力 原価	消費	税			
	行 Code 摘要							単価	手数料	立替金	単位	割
•	1 0000-31	→ 手数料	∤(単価表∄	京用:通常	常単価)		5	100	1,500	0		

・金額(1500)は基本料(1000)+単価(100)×数量(5)で計算されます。

更に、単価を100 200 に変更します。

	手数料		2,000	立替金		0	請求額	2	,000 差引	請求	1,9	00
	源泉税		2,00	2,000 消費税			100 外国送金			0		
	Add Line	Add Line Ins Line Del Line ReNum ReCor						Cenvert	摘要等	入力 原価	消費利	ž
	行 Code	9		摘要			数量	単価	手数料	立替金	単位	割
►	1 0000-3	1 <u>-</u> 手数	料(単価表	示用:通	f 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		5	200	2,000	0		

・金額(2000)は基本料(1000)+単価(200)×数量(5)で計算されます。

更に、基本料を1000 10000 に変更します。

	手数料	*	11	,000,	立칱	盐金			C	請求額		11,000	差引請求	10,450
源泉税 1,100				,100	消税	対象		11	1,000) 消費税		550	外国送金	0
,	ert		摘要等	入力。原	価	消費	税							
1	単価		手数料	立替金	214	単位	割	外	貨	管理者		担当者	基本料	費用明細コード
▶	20	00	11,000		0				0.00		0	<u> </u>	10,000	-

・金額(11000)は基本料(10000)+単価(200)×数量(5)で計算されます。

17. 単価表示用:年金計算(23)

計算区分「単価表示用:年金計算」は、630から新しく追加した計算区分です。 従来の「年金計算」は、別途、別のフォームを開いて納付年数を入力していましたが、この計算区分は 納付年数の入力機能はありません。

「単価表示用:通常単価」との違いは、初期値として請求項の数を、数量にセットすることです。 それ以外の機能については、同じです。

18. 単価表示用:請求項(25)

計算区分「単価表示用:請求項」は、630から新しく追加した計算区分です。 従来の「請求項」は、数量に請求項の数を、単価に基本料を、増単価に単価をセットして、金額は 単価(基本料)+増単価(単価)×数量(請求項)で計算していました。

「単価表示用:請求項」の場合は、数量に請求項の数を、新しく設けた、請求明細の基本料に基本料を 請求明細の単価には単価をセットして、金額は基本料+単価×数量で計算します。

19. 単価表示用:(請求項-1)(26)

計算区分「単価表示用:請求項-1」は、630から新しく追加した計算区分です。 従来の「請求項-1」は、数量に請求項の数を、単価に基本料を、増単価に単価をセットして、金額は 単価(基本料)+増単価(単価)×数量(請求項-1)で計算していました。

「単価表示用:請求項-1」の場合は、数量に「請求項の数-1」を、新しく設けた請求明細の基本料には基本料を、請求明細の単価には単価をセットして、金額は基本料+単価×数量で計算します。